

議員全員協議会会議録

令和元年5月10日

宮古市議会

令和元年5月宮古市議会 議員全員協議会会議録目次

(5月10日)

議事日程	1
出席議員	2
欠席議員	2
説明のための出席者	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
協議事項(1)	3
協議事項(2)	9
閉 会	10

宮古市議会議員全員協議会会議録

日 時

令和元年5月10日（金曜日） 午前10時55分

場 所

議事堂 議場

○

事 件

〔協議事項〕

（１）第14回議会報告会について

（２）その他

出席議員（22名）

1番	白	石	雅	一	君	2番	木	村	誠	君		
3番	西	村	昭	二	君	4番	畠	山	茂	君		
5番	小	島	直	也	君	6番	鳥	居	晋	君		
7番	熊	坂	伸	子	君	8番	佐々木	清	明	君		
9番	橋	本	久	夫	君	10番	伊	藤	清	君		
11番	佐々木	重	勝		君	12番	高	橋	秀	正	君	
13番	坂	本	悦	夫	君	14番	長	門	孝	則	君	
15番	竹	花	邦	彦	君	16番	落	合	久	三	君	
17番	松	本	尚	美	君	18番	加	藤	俊	郎	君	
19番	藤	原	光	昭	君	20番	田	中		尚	君	
21番	工	藤	小	百	合	君	22番	古	舘	章	秀	君

欠席議員（0名）

なし

議会事務局出席者

事務局	長	菊	地	俊	二	次	長	松	橋	か	お	る
主	査	前	川	克	寿	主	任	佐	々	木	健	太

開 会

午前10時55分 開会

○議長（古舘章秀君） 時間前ですが、ただいまから議員全員協議会を開会いたします。

只今までの出席委員は22名でございます。会議は成立しております。それでは、次第に従いまして、会議を進めてまいります。

○

協議事項（１） 第14回議会報告会について

○議長（古舘章秀君） 協議事項の1、第14回議会報告会についてを議題とします。

議会運営委員会委員長より説明があります。

橋本議会運営委員長。

○委員長（橋本久夫君） それでは、第14回議会報告会についてのご説明をさせていただきます。

皆様のお手元に資料ナンバー1がございますが、これを通して説明をさせていただきます。まず今年度の議会報告会について、議会運営委員会で検討したものでございます。

（１）といたしまして、議会報告会の実施要綱について、第2条第1項及び第2項による中学校区単位で、年1回以上開催しているもの、従来のものですが今年度は11月頃に開催することといたしたいと思います。

そして（２）2点目として、今回、参加者の年齢層が高く、男性が多いことから、市民の多様な意見を把握するために、これまで参加していない層にターゲットを絞ったものを、試行的に開催するという事で、今回、第14回議会報告会についてをご説明をさせていただきたいと思います。

それで今回ご説明させていただきたいのは、まず対象を女性に絞っての議会報告会を開催したいということでございます。意見交換のテーマとしては「女性の視点で考えるまちづくり」をテーマに行っていきたいと思っております。意見の交換方法として、ワークショップ方式を考えております。

それで、募集方法についてですが、現在、女性会議、市内で9団体ほどで構成しておりますが、この団体にご案内を差し上げて、5月中に予定している女性会議の総会で周知をしたいと考えております。あわせて、一般公募として、広報みやこでも掲載をしてこのワークショップに参加を呼び掛けていきたいと思っております。いずれにしても、参加人数把握のために、事前申し込みをしていきたいと考えております。

募集人数としては、ここに書いてあるのは最低募集人数ではございますが、28名が最低人員で、これを超えても構わないわけですが、ここは1テーブル約7名ほど、議員と市民を交えた1グループで意見交換を行っていくという形でございますので、最低人数はこの人数と考えています。これより増えれば、これにプラスアルファとすれば、テーブル数も増え、議員の数もちょっと少なく、2人にしたりといった形でテーブルを増やしていく考えでございます。

会場につきましては、イーストピアみやこを予定しております。

開催時期に関しましては7月から8月頃を予定しておりますが、現在、7月の末ごろの日程を何カ所か確保しております。これが決定されしだい日程を進めていきたいと思っております。時間帯については、平日の午後1時30分から午後4時頃までの時間帯で行ってきたいと思っております。

このワークショップ形式に関しては、全く議会報告会では初めてでございます。イメージとしては、数年前に定住化対策の中で議論を重ねました、ああいう形での方向をイメージして作り上げていきたいと考えております。

そのために、予定スケジュールといたしましては、まず6月15日号の広報みやこで告知をしていきたいと思っております。これについては、5月23日が締め切りとなっておりますので、ここで記事を確定し6月15日号の広報で募集案内をしていきます。

それから、5月21日に女性会議の総会が開かれるということで、議会報告会の案内をここでしたいと考えております。これに関しては、6月10日頃までに、参加者の、出席者の報告を打診していきたいと考えております。

それで広報みやこには、6月15日号に掲載になって、7月10日が広報による募集締め切りをしたいと考えております。

これより、6月15日から7月20日の間に、この議会報告会をよりよいものにしていくためには、議員さんの事前研修も必要でないかなと考えております。この間に事前研修を、講師を招きながら再度、どういう手法でやっていくのか以前のことを思い出しながらも、この議会報告会について学んでいきたいと考えております。

その次の日程で、7月下旬から8月上旬の間にイーストピアみやこの多目的ホールで開催していきたいと思っております。あわせてここで出された意見については、8月から9月の間に意見の集約等を行っていきまして各班であり、そして議運であり、様々な形で集約しながら市長への要望等、それから、これを反映させる仕組みにもっていききたいと考えております。

今回は、このような形で第14回の議会報告会を進めていきたいと思っておりますので皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

○議長（古舘彰秀君）説明が終わりました。

この件について何かご質問があれば挙手願います。

松本議員。

○17番（松本尚美議員） 試行的にはいいことだなと思います。

ちょっと確認なんです女性会議、女性をメインというのは理解しているんですが、この女性会議が市内9団体で構成している、全体で400人程というんですけれども。市内の9団体だけなのか、もっとこう広げる必要があるのかどうか。この9団体はどういう団体か分からないので、限定するわけじゃなくて、一方で広報で周知いたしますよということなんですけれども、なんかメインがここかなっていう雰囲気もね、あまりにも強いのかなと思われるけども。もっと広くするのが可能かどうかと。この9団体がどういう団体か分からないので、そこを確認したいなと思います。

広報みやこなんですけれども、掲載は結構だと思いますが、年齢とかそういったものもどうするのかですね。上はもう、限りなく上なんでしょうけれども、下はどうするのか。学生含めて参加可能かどうか、どうなってるのかっていうのが2点目です。

まあ1問1答かもしれませんが、この際続けてなんですけれども。7月の広報に掲載する、この広報掲載までに当然、期日とか時間とか日程とか、日時ですか、開催日時とか。そういったものは、やっぱり出さないといけないんじゃないかなというふうに思うんですよね。そこがどうなっているのかを確認したいですね。

○議長（古舘彰秀君） その辺で取りあえず。

○委員長（橋本久夫君） 女性会議については、生涯学習課を通じて、今、この団体を把握させていただいて、そこで呼びかけるということを基本としております。400人程いるってということなんです、その会員全体で400人が参加するかどうかは分かりませんが、いずれ9団体で構成しているこの団体メインに、今回は声をかけ

ていこうということで、1回ちょっと絞らせていただきました。まだこれから総会があるんで、返事がまだ来ていませんけれども、どっかで確保していきたいということで、ここを絞らせていただきました。

あわせて幅広くするためには、広報みやこの方で呼びかけながら、今回は試行的なので、女性という限定の中で呼びかけをしていきたいというのが、ここの考え方になっております。

9団体については、ちょっと事務局の方から紹介していただきます。

○議長（古舘彰秀君） はい、松橋次長。

○松橋次長 名簿をいただいていたわけではなくて、話のなかで、漁協の婦人部とか、商工会議所の婦人部っていうふうな団体が入って9団体っていうふうには聞いておりました。それ以上は聞いていないです。

1つの団体で、100名位で構成しているところもあるっていうところまでしか、ちょっと話しは聞いていなかったです。

○委員長（橋本久夫君） いずれ総会の時に改めて団体の、女性9団体の日程を細かく把握していきたいと考えておりました。年齢層に関してはですね、特にこれ設けていなかったんですが、この部分に関しては、試行的にやった中で男女区別ない若者、いろんなグループについてはまたいずれかの機会に考えていきたいなと思っています。女性っていうなかで広い年齢の中で参加を呼び掛けていきたいなと思っていますところなんです。

○議長（古舘彰秀君） 期日はいつですか。

○委員長（橋本久夫君） 期日はですね、今ここ抑えているのが、7月の24、25、29ですね。

この日程を一応、報告して今、伝えている段階です。

○議長（古舘彰秀君） 松本議員。

○17番（松本尚美議員） はい。

女性会議のメンバー、今2団体位しかいない、分からないということですが。今聞く限りでは、限りなく年を重ねた方が構成しているのかなという雰囲気があります。では、若いという表現で、若いというのはどこまでかっているのも、まだはっきり分からないんですが。まあ、分けても別に私は問題ないと、複数回やるという前提であれば問題ないと思うんですが。

じゃあ、1回限りということではないとは思うんですけども。例えば、若い、有権者になったところを下限にするとかですね。そういった部分でも、やはり参加をなんとかいただくというのをね、切り分けてやらないと。テーマは持ち寄るものですけども、なかなか募集しても参加が得られない。そして今までの経験則ですと、そういった団体にですね、案内してもとりあえず案内が来たから行けというようなね、あまり積極性を考えられないような雰囲気もね、ないわけではないんですよね。

ですから試行で、1回経験則で、定住化課題をやっていますけれども、そういったものを踏まえていただいて、積極的な参加をいただけるような、まあ、これはテーマの設定にも当然かかると思いますし、その後どうするのかということも含めてですね。一つのこの、何て言うんですか。一回じゃなくても私はいいと思うんです。当然複数回試行していくということも必要になってくるし、我々が議会として何を目標として、目的としてやってくのか。単なる市長提言だけなんですか。我々議会の政策提言にどう反映させていくのか、そういった部分も私は必要なんではないかと思っていますが、その辺はどうなんでしょうか。

○委員長（橋本久夫君） 先ほどおっしゃったように、これ1回に限らず、複数の様々な機会とか団体とかを捉えて、こういう形でより身近に対応する形での議会報告会になればいいなと思っています。そこで、多様な意見をくみ取りながら、従来やってきたような形での報告会でまとめた意見を、さらに市政に反映させる方法は作っ

ていかなければならないとは思っています。

○議長（古舘章秀君） 松本議員。

○17番（松本尚美君） ですから、複数回やっていくうえでも一つこう、もうちょっとこう、中…〔聴き取りできず〕… 的な組み立てをぜひやっていただきたいんですよ。今回、女性の視点で考えるまちづくりということですけども非常に幅が広いですね。子育て世代も当然あるでしょうし、そうでない経済にかかる人たちも当然いるだろうし、あとは地域コミュニティとかですね、いろんな活動をしている団体があると思うんですね。

じゃあ、これは第1回目ですから、トータル的な把握の部分でもいいのかなということは感じるんですけども。そこをどうテーマを設けて、年齢をですね、ある程度参加し易い、おそらく、まあおそらくというのは何となく推定なんで言いづらいんですけども、高齢の方々、年を重ねた方々の参加が多いとですね、若い人たちが参加しにくい。それなりに地域でも、漁協の婦人部、今は婦人部って言わないのか、女性部とかですね、そういうのになってくるとですね、そういった地域の組合の集まりにも若い人が行かないそうです。私が聞く限りではね、発言しづらい、そういった状況のようです。もうちょっとロングに、せっかくやるのであれば、複数回企画してやっていくのがいいんじゃないかなと思うんですがどうですか。

○委員長（橋本久夫君） 議運の中でもターゲットを絞る話をしている中で、今回は女性ということだったんですが、例えば主権者教育ということで高校生とやるとかですね。先ほどもちょっと説明しましたが、若いまちづくりグループだったり、NPOだったり、そういう団体との話し合いも必要なんじゃないかという議論はしてまいりました。

そのなかでやっぱり、最初の試行的な意味で女性を絞って、こういう形でやってみようということで、この方式を取り入れたいなど。で、大きな「女性の視点で考えるまちづくり」ということで、大きなテーマを持たせてやるんですけども、結果的にワークショップ形式ですので、7人、5、6人とかそういうグループでやるんで、どういう形になるか分からないんだけど、より発言しやすい環境の中でのグループになる。

いろんな例でやりますけれども、例えば先ほどのこういう大きなまちづくりのテーマにしても、やはり子育てのことも当然出てくる、それから経済のことも出てくるだろう、そういう意見を反映させて、それをグルーピングにしながら、丁寧にしていくというのも一つ、この流れについてくるかと思います。ですから大きな子育てに絞るとしても、いろんなテーマが出てくると思うんですね。今回は、大きなまちづくりのなかで考えられていく施策であったり問題も出てくる。それをグルーピングしてやっていくのが、このワークショップの方式でありますので、そのへんはこういった連携が必要で、政策の中に反映させていくことができるかなと想定はしているところです。

○議長（古舘章秀君） 落合久三君。

○16番（落合久三君） 議運の皆さんには、いろいろ御苦勞をかけているなっていう意味では、敬意を表するものであります。

そこで、提案されている第14回議会報告会なんですけど、1の（2）の間ずっとやってきて、率直に言って参加者が非常に、書いてあるとおりなんですけど、議運の皆さんの問題意識っていうのが、（2）に書いてあるのかなというふうに読むんですが、参加者の年齢層が高い、男性が多い。数字は参加人数が少ないというのは、直接は書いてないんですが。いつもやるたびに、例えばどこどこが何人だったって、押さえてやってるわけです。そうするとね、もう10人にもいかないというような所も、もうずっと続いているんですが、議運の皆さんの主要

な問題意識っていうのはどこにあるのかなあというのが、ちょっとなかなか読み取れないんですが。

私なりには、どうやったら参加者を1.5倍、2倍、3倍というふうに広げられるのかなというのはずっと考えてきたんですが。全国でやっているのを見ると、例えばテーマ別の議会報告会。だから、もう子育てもあれば、産業振興もあれば、1次産業、地場産業にどうやって就業者を、若い人をね、とかそういうテーマをもう最初から明確にして、二つ、三つ、四つ、したがって、重茂では1次産業のことをテーマにした議会報告会をやるとかね、そういうふうに行っているところの経験をこの間聞いてきたわけですが、それをやることによって、問題意識を持った人たちが当然集まってくると。願わくばそのことによって、参加者も増えればね、願ったりということだと思うんですが。

年齢層が高く男性が多いということから、14回目は女性にターゲットを絞ってやるっていうふうにとめているわけですが、募集人員のところですが、終わりにしますが、ワンテーブル7人、議員3名市民4名。そうすると、1テーブル7人っていうのはですね、過去の10数回やっているなかでもね、議員は大体、5人6人ですよ。市民の参加で、もっと少ないところは3人とか、4人とかって、それで、結局2桁になんないっていうのもあるんですが、大ざっぱに言えば、統計も今、資料がないんであれですが、従来の議会報告会よりも、最初から規模を非常に狭めてっていうのはやっぱりどうなのかなっていう、素朴な疑問が私はあります。

それを7テーブルに広げる、これは議員の数が22名ですから、 $3 \times 7 = 21$ っていう計算でこうなってるんだと思うんですが、それでも、目いっぱい予定する人数で言えば、28人ということだね、どうなのかな。要するに長くてしゃべって申しわけありませんが、議会運営委員会は、主にどういうところ、何を解決するために、今回、こういう女性をターゲットにするのかというのね、私の問題意識ではちょっと、共通するところもあるんですが、そういう、疑問を率直に思うんで、端的に委員長から聞きますが。この間、10数回やってきて、参加者が少ない。年齢層が高い、男性が多いということから、主には男性が多い、年齢層高いということから、女性にターゲットを絞ってやってみようと、それがだめだっていう意味じゃないのです、とういうふうに思うんですが。

逆に言えばですね、ワンテーブル7人っていう押さえ方自身が、多くの市民にやっぱり議会のことを分かってもらう、市政のこともわかってもらう、意見もどんどん掴んでいくっていうオーソドックスな目的から見ればね、ちょっとどうなのかな。そこらへんはどういう議論になったのかっていう、そこに私の問題意識があるんですが、どうでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 橋本議会運営委員長。

○委員長（橋本久夫君） まず、これまでの議会報告会がベストなのかベターなのかは、先輩方が作ってきたものでございますので、それはそれで今までのやり方は11月にやるっていう担保をしています。

あわせてやっぱり今後も、今、落合議員がおっしゃったように人が少ない、年齢層が高い、じゃあどうやって人を集めていこうか。じゃあ、やはりこちらから呼びかけながら人を集めるのもいいんじゃないかなということで、今回は試行的にワークショップ形式で、この方向を取り入れたいと思います。

ですから11月は11月で、これまでの形をやらせていただく。それと別の形で今回のものを提案して進めていくというのも、これから市民と対話していく中では必要なのではないかと考えておりました。そのなかで女性を今回ターゲットに絞って進んでいこうということで取り入れたわけでございます。で、あくまでも募集人員は最低人員28人とはしておりますが、これは最低でございます。ですから、参加が増えればそれに越したことはないんで、そのためには議員が、ファシリテーター、市民の中に入ってくださいますので、その場合は1人だ

ったり2人だったりする可能性がありますので、28人の枠で行くところのくらい的人数だということなので、増えれば増えたなりに定数も増やして、大きく議論をして、議論の形は増やしていきたいという方向で増やして、やはりこのワークショップっていうのは、小規模の人数でやるのが一つの手法でございますので、これまでの対面方式ですと女性が参加しても、なかなか通常の一般的な要望とか意見しかできないんですが、これはあくまでも私たち議員と参加者と共に意見を反映させながら、一つの方向性を導き出していく、手法の一つだと理解をしていただきたいと思いますと思っております。

ですから、そのために私たちも、事前研修をしていかなければならないのかなという気がしておりました。

○議長（古舘章秀君） 落合久三君。

○16番（落合久三君） 事前の議員、事前研修もあるんですが、意味は分かるんですがね、この事前研修は端的に何を研修するのでしょうか。

○委員長（橋本久夫君） 議員皆さん方にいきなりこうやってと言っても戸惑うし、私どもも市民の中で、技術的にある程度リードしていく部分も必要かと思います。ただ、いきなり私たちも、ワークショップをやるんだってと言っても、言葉ではね、イメージしているかもしれませんが、では実際にどういうふうな議論をしていくのかっていうのが求められている。成功させる一つの要因として、事前研修というのは大事なかなと思ってこれを行います。

○議長（古舘章秀君） 松本議員。

○17番（松本尚美議員） 改めて今、落合議員とのやり取りで、議会報告会は年に1回ですよと、基本条例で定めてますよと。ただ今までは、議会報告会っていう名称で、意見交換って書くことで、2回やっていた。で、1回は通常どおりやるということですが、試行的にやるというのであれば、それはそれでいいんですけども、何も議会報告会にこだわらなくていいんじゃないかなという思いがあります。報告会とか付いちゃうと何なのというのがあるので。

これから、そういうのを複数回やって、試行してみて、こういう方式でこういう政策提言を議会がするためには、こういった方式が必要ですねということになれば、明記していくっていうことも必要なんじゃないかと思うんですね。で、今回試行的に切り分けてやるというのであれば、何も議会報告会という第14回にこだわらなくてもいいんじゃないかなという思いがあります。ワークショップの名称なんかは、私は別に変えてもいいんじゃないかな、14回にこだわらないでいいんじゃないかな、という思いで今聞いて思いますね。その辺はどうでしょう。

○議長（古舘章秀君） 橋本委員長。

○委員長（橋本久夫君） 皆さんからそういう意見があれば、この第14回議会報告会というのはあくまでも我々側の、開催する側のもので、例えばチラシとか、案内を出す場合も、「議員と語ろう」とかなんとか、そういうテーマを設けた案内の仕方もあるのかなと、今の話を聞いて思いました。ただ、14回とすれば、我々議会のなかでは開催していきたいという位置づけになります。これはあくまでもまあ、内側の話でやっていきたいなと思います。

○議長（古舘章秀君） ほかにございませんか。

白石議員。

○1番（白石雅一君） はい。日程について、お伺いしたいんですが。

今回、募集方法の中で、女性会議の皆さんに総会で案内をと書いていますけれども、もし女性会議の方で、日

程であつたり時間を変更してほしいとか、集まりやすい時間帯はもうちょっと夕方の方だからってというような話が出れば、これじゃない時間帯になったりするっていうことは、ないんでしょうか。

○議長（古舘章秀君） 橋本委員長。

○委員長（橋本久夫君） 一応、この時間でやりたいと思います。それもやっぱり議論したんですが、夜やっても、昼やっても来られない、さまざまな事情があるかとおもいます。やはり、どこかで絞っていききたいなとは思ったところです。で、女性が少なかったのは、夜の方が逆に少ないんじゃないかなという意見もあったなかで、昼でじゃあ一度、こういうワークショップ形式で声をかけて、集まりやすい時間に来ていただくという意味です。

○議長（古舘章秀君） 白石議員。

○1番（白石雅一君） ここはもう固定ということですか。はい、了解しました。

○議長（古舘章秀君） ほかにございませんか。なければ、この件はこれで終わります。

○

協議事項（２） その他

○議長（古舘章秀君） 次にその他ですが、皆さんから何かございませんか。

畠山議員。

○4番（畠山茂議員） 先ほどの議論ともちょっと関連しているんですけども、意見をちょっと発言したいと思います。

それはですね、議員のなり手の課題について、要望を兼ねてお話をしたいと思っているんですが、今年は12年に1回、参議院選挙と地方統一選挙があります。先月、4月の7日と21日に全国では統一選挙が行われました。

その中で、マスコミ等で話題になっているのが、最低の投票率と、議員のなり手不足と、無投票選挙の3つが課題として出されているところです。宮古市は、この間の改選で定員が28から22になりました。報酬のほうは、報酬審議会に委ねるとのことなんですが、聞くところ長い間ずっと上がっていませんし、報酬審議会も開かれていないというふうに聞いております。

新聞等で見ると、県内では、議員報酬を引き上げる動きも出ていますし、私個人の意見ですがけれども、3年後の改選期の時に定数に対していっぱい候補者が出てくれればと、大変期待はするんですが、現実的には厳しいのではないかなというふうに思っています。

そこで議員のなり手不足ということで言うと、昨年共同通信の全国の議長アンケートでも、古舘議長さんもその認識は同じように示しているというふうに思っています。今回、議会改革がテーマで計画してやっていただいて、女性会議との意見交換、これは大変いいことだというふうに思います。

そこで私が提案したいのは、今年度、復興計画がもう最終年度ということで一つの区切りがつくところで、これから3年後の改選期に向けて、議員の、一つは高齢化。それから、もう一つは昨年に成立しました政治分野の男女共同参画推進計画、ここでは政党に男性女性同数の候補者を努力義務としているんですが、残念ながら宮古市、全国を見ても女性議員が増えていないというのが、現状だというふうに思います。

そこで、改めて宮古市議会として報酬、あるいは定員のあり方。そしてまた先ほど来言われた、女性とか若い人たちの参加しやすいような環境づくりと言うのをぜひですね、特別委員会なり、あるいは会派代表者会議なり、そうした協議の場を設けていただいて、議員のなり手の課題に取り組んでいけるように、これは私個人の考えなんですが、議長にこのことをご検討願いたいというふうに思います。

○議長（古舘章秀君） 意見としてお伺いします。

そのほかにございせんか。

○12番（高橋秀正君） 皆さんにみでえに難しい話でねえ、簡単な話。

クールビズの話をしてします。ええ、国は宮古市でも5月から9月まで、あるいは10月までっていうことでクールビズを進めてくださいっていう通達が来ているはずですよ。我が議会の基本条例で言うと、6月から9月までということになってますが、この際、国の基準にならって我々もクールビズを率先して取り入れていったらいいかかというご提案を挙げます。

この点については、議運でも協議しますが、皆さんの賛同を得たいということです。

〔「異議なし」と呼ぶのも多数〕

○議長（古舘章秀君） この件につきましては、議運で、実はこの認識のもとで、今回皆さんに周知する機会がございましたので、本日はこういう形になりました。のちに議運で決定し皆さんに周知していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

〔「異議なし」と呼ぶのも多数〕

○

〔その他「宮古市議会関係例規集の更新について」「表決システムの操作方法について」は割愛〕

午前11時53分 閉会

○

宮古市議会議長 古 舘 章 秀